

**TAZMO®**



Technology for People's Future

**第40期 年次報告書**

2011年1月1日 ~ 2011年12月31日

証券コード：6266



## 求められる最先端を 「人」の視点から創造する。

人としての優しさと卓越した創造力を  
基本に、あくなき「挑戦」によって、  
豊かな未来社会の創造に貢献する——  
これがタツモの経営理念です。  
開発型企业として、タツモは常に「人」に  
役立つ最先端を追求しています。

## 1ドル75円でも 収益確保ができる 体制を2012年度で 確立いたします。

- 半導体関連機器はTSV・洗浄装置で飛躍
- 液晶製造装置はメンテナンス・改造案件に集中
- 新規分野の強化

代表取締役社長  
池田 俊夫

### 第40期の総括をお願いいたします。

#### 業績及び事業報告

社長に就任し初めて迎えた第40期は、東日本大震災、ヨーロッパのソブリン債権の問題を発端にした世界不況及び歴史的な円高と、極めて厳しい経済環境となりました。当社の売上に関するドル建て取引は10%未満ですが、間接的に海外へ出荷されているものを加えると80%を超えているのではと見ています。したがって円高が、直接的ではないものの、利益面に大きく影を落としたことは否めません。

当事業年度における液晶製造装置は、テレビ用の需要減退は見込んでいましたが、タッチパネル用塗布装置が思ったほど伸びず、また販売単価の値下げ攻勢も強く、収

益面で残念な結果となりました。

半導体関連機器については、TSV用のボンダー、デボンダー、ガラスリサイクル装置が好調で、主に海外のパワーデバイスメーカーに出荷しております。

## 第41期の取り組みをお聞かせください。

### 今年度の見通し

第41期も液晶製造装置の急激な落ち込みや設備投資需要の低迷が引き続き予想され、売上は20%ダウンを余儀なくされる見通しです。利益面については、大幅な装置原価削減を図るための設計変更、本格化しだしたベトナム工場での部品加工のさらなる推進等、生産コストの削減に加えて、経費削減のための一時帰休、賞与・役員報酬カット等にも着手しており、利益確保を目指したいと考えております。懸念される円高については、1ドル75円でも収益確保が可能な体制を第41期で確立いたします。

事業方針としては、液晶製造装置では、大型投資案件が見込めない中、メンテナンス・改造案件に集中し、収益確保を図る計画です。半導体関連機器は、ユーザーのニーズに応える製品での差別化で収益確保に努めたいと考えております。第41期においては、TSVやバンププロセスに加え、高速枚葉洗浄装置を展開いたします。またコーター&デベロッパは、海外のライバルに勝てるコストパフォーマンスを確立しており、引き合いも堅調です。

### 新規分野への挑戦

2年前より参入した基板検査装置は、昨年IPCRテスターを検収売上し、今年度は大幅に売上台数の増加が見

込めます。有機EL照明用塗布装置も複数出荷し、量産機械の開発についても注力してまいります。さらに分散型無機EL照明や球状シリコン太陽電池モジュールのロール・ツー・ロール一貫装置製造プロセス・装置及び製品が完成いたしました。今後もより一層、製品開発に邁進してまいります。

## 最後に株主さまへのメッセージをお願いいたします。

### 新中期経営計画における配当方針

配当については、今年発表した新中期経営計画「TAZMO Vision 2014」で明示しているように、配当性向20%以上を目標としております。当社は、独自性豊かな技術ならびに事業革新に邁進してまいりますので、今後とも、株主さまのより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## TAZMO Vision 2014の基本方針

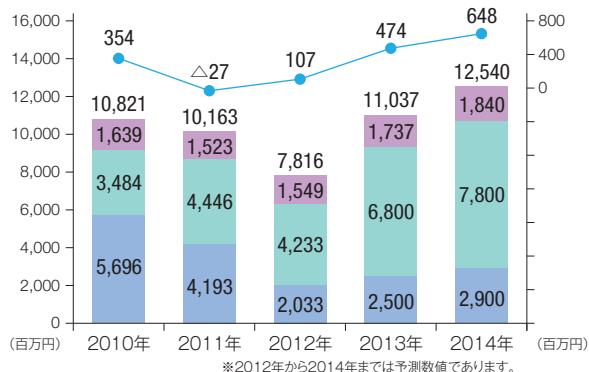
独自性のある装置の提供に向けて、先端の技術・情報を得るために、常に「挑戦」の気持ちを持って行動し、貪欲に変化し続け、独自性のある装置(性能・コスト・サービス)を着実につくりあげる。

事業を見据えた研究開発に焦点を絞り、その効率を高めて将来の収益確保とする。

### 2014年度目標値

売上高	120億円以上
経常利益率	5%以上
配当性向	20%以上
研究開発費	3年間で15億円

# 新中期経営計画 TAZMO Vision 2014



## 基本方針

- 独自性のある装置の提供に向けて、先端の技術・情報を得るために、常に「挑戦」の気持ちを持って行動し、貪欲に変化し続け、独自性のある装置(性能・コスト・サービス)を着実に作りあげる。
- 事業を見据えた研究開発に焦点を絞り、その効率を高め将来の収益確保とする。

## 製品分野別 事業方針

### ④基板検査装置

プリント配線基板へ負荷をかけることで、疑似不良の検査ができるIPCRテスターの開発をしており第40期に初出荷・検収を受け、売上の拡大を図る。

### ①半導体関連機器

半導体用シリコンウェーハ搬送機構は、ニーズ的に対応し安定の推移が見込まれている。新製品を投入しさらなる事業拡大を図る。

半導体製造装置は、レジスト塗布装置、TSVプロセス装置、枚葉洗浄装置が高い評価を得ており、量産体制を確立する。

### ⑤ミニマルファブ

革新的な半導体製造プロセスの共同開発事業に参加。協業各社との共同開発において、当社の搬送システム技術を活かし開発を進めていく。

### ②液晶製造装置

液晶関連の大掛かりな設備投資は見込めない。メンテナンス・改造案件に集中し、安定的な収益を確保する。タッチパネル、電子ペーパー、有機EL関連の装置開発により、売上減少をカバーする。

### ⑥有機EL照明用途塗布プロセス開発

当社他3社及び2大学によるNEDO※1からの受託事業である「有機EL照明の高効率化高品質化に係る基礎基板技術開発」において、当社の受け持つ薄膜形成プロセス用の試作機から量産試作機、そして量産機へと装置開発を推進していく。

### ③金型・樹脂成形

金型については、特殊材料対応金型、微細切削加工金型製造販売に特化し、収益確保していく。

樹脂成形はプレック株式会社、上海、大連の生産拠点にて効率的な製造をし、収益に重点を置いた活動を行う。順次、国内から海外生産へとシフトする。

### ⑦無機EL照明

当社の塗布技術を応用し、消費電力を従来よりも50%抑えた分散型無機EL照明の開発に成功。照明メーカー等、他社との協業により最終製品の販売まで確立する。

Pick

※1 経済産業省所管の「独立行政法人 新エネルギー産業技術総合開発機構」。

## 分散型無機ELの開発



装飾照明

昨年11月、従来より性能を高めた分散型無機EL<sup>※2</sup>を、塗布技術を用いて試作することに成功しました。

分散型無機ELはフレキシブルな大型シート状光源として従来から知られていましたが、輝度、発光効率の点で有機ELやLEDなどと比較して一般への普及が遅れています。タツモでは従来の設計を見直し、数々の特徴はそのままに発光効率を約2倍に向上させることに成功しました。これにより、従来の分散型無機ELと同じ明るさで電力消費量の約半減を実現し、省電力のニーズに対応した平面光源、各種表示器、装飾照明などに分散型無機ELを提案していきます。

デバイス形状



変形可能な  
大型シート状光源



発光効率を約2倍に向上

### 他の個体照明デバイスとの比較

	LED	有機EL	無機EL(分散型)
商品の名称	LED電球 LEDランプなど	有機EL照明 OLED照明など	ELシート ELライトなど
発光体の素材	GaNなど	低分子及び高分子の 有機発光体	硫化亜鉛 蛍光体
デバイス形状	点発光 スポットライト 電球形	面発光 平板 シート状	面発光 シート状 フレキシブル
サイズ	チップ状	~10cm×10cm	~1m角以上も可能
現状の性能	一般照明用 蛍光ランプレベル	電球形 蛍光ランプレベル	白熱電球レベル
商品化状況	商品化は古く、照明 用としても蛍光ラン プに置き換わる勢い。	開発中。本年度中の 商品化が計画され ている。	面発光デバイスとして は古くから商品化され るも、性能改善に遅れ。

### 市場規模

一般照明用  
として普及期

市場参入期

目指す  
方向

ニッチ

※2 樹脂などのバインダー材料と混合した粉末状の無機蛍光体を、厚さ数10マイクロメートルの膜状に形成して電圧をかけることによって発光させるデバイス。材料が比較的低コストであること、大気中のプロセスで大型のものまで作られることなどから、バックライト光源や補助照明などとして利用されてきたが、最近では性能面で有機ELやLEDに比べて改善が遅れている。

## 2011年度 連結業績

当社グループを取りまく事業環境は、液晶業界におきましては、業界の成熟化や製品過剰により、設備投資の引き合いが予想以上に減少いたしました。また、年度前半は好調であった半導体業界におきましても、後半は半導体製品の需給バランスの悪化を受け、半導体メーカーの設備投資が急激に減少いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は10,163百万円（前期比6.1%減）、営業損失4百万円（前期は営業利益366百万円）、経常損失27百万円（前期は経常利益354百万円）、当期純損失328百万円（前期は当期純利益383百万円）となりました。

### 2011年度 連結業績

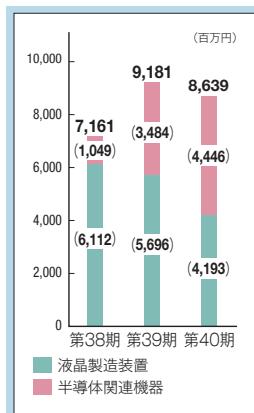
	2011年度 連結会計年度 自 2011年 1月 1日 至 2011年 12月 31日	ご参考	
		前連結会計年度 自 2010年 1月 1日 至 2010年 12月 31日	対前期 増減率
売上高	10,163 百万円	10,821 百万円	6.1%減
営業利益又は 営業損失(△)	△4 百万円	366 百万円	—
経常利益又は 経常損失(△)	△27 百万円	354 百万円	—
当期純利益又は 当期純損失(△)	△328 百万円	383 百万円	—

## セグメント別概況

### プロセス機器事業

#### 液晶製造装置

液晶テレビ業界の成熟化に伴い液晶関係の大規模な設備投資もなく、カラーフィルター製造装置の受注、売上は大幅に減少しました。当連結会計年度の売上高は4,193百万円となりました。

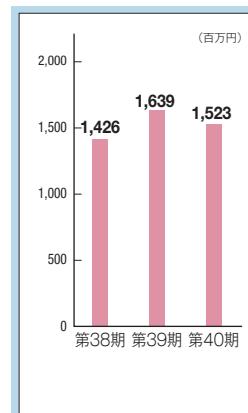


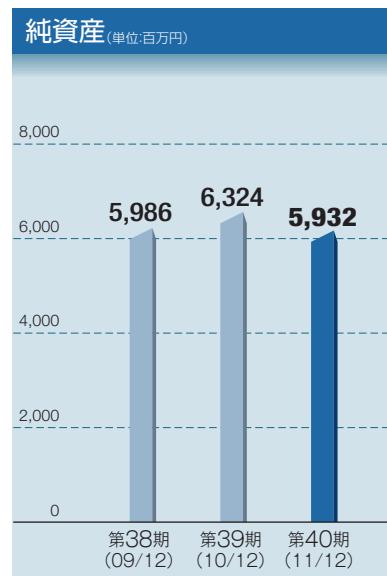
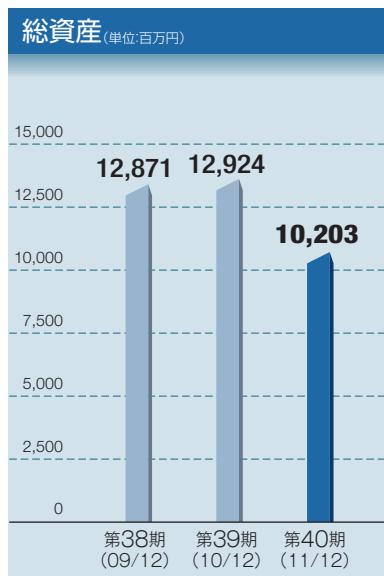
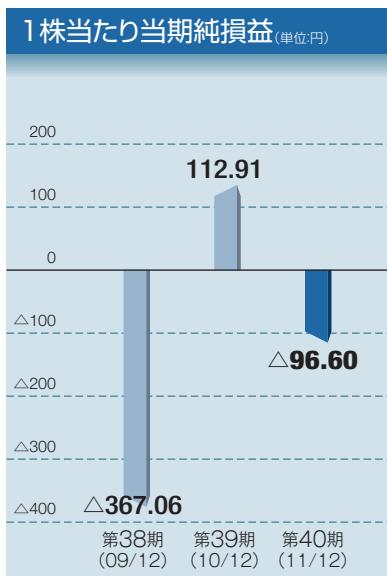
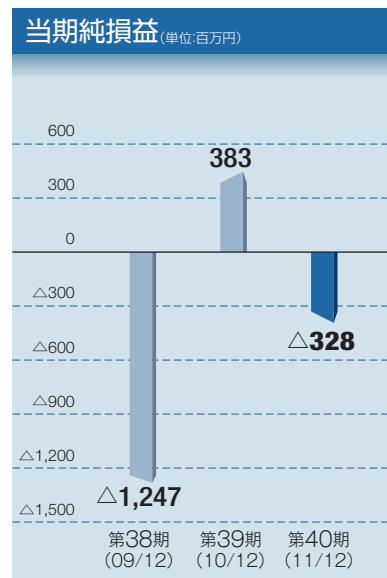
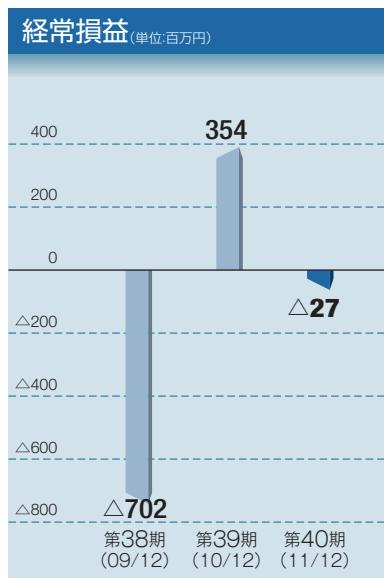
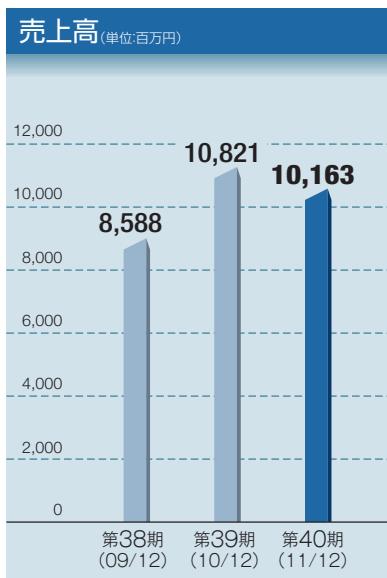
#### 半導体関連機器

年度前半は、昨年度からの好況を維持しておりましたが、後半におきましては受注状況は厳しいものとなりました。しかし、新規開発装置の売上も加わり、当連結会計年度の売上高は4,446百万円となりました。

### 金型・樹脂成形事業

デジタル家電向け製品などの材料を主体として売上は順調に回復いたしました。しかし、製品価格については依然として厳しい状況が続いております。当連結会計年度の売上高は1,523百万円となりました。





## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成22年12月31日現在)	当連結会計年度末 (平成23年12月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,166	6,575
固定資産	3,758	3,628
資産合計	12,924	10,203
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,339	3,387
固定負債	1,260	883
負債合計	6,600	4,270
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,422	6,039
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	3,118	2,735
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	△ 97	△ 115
その他有価証券評価差額金	△ 2	△ 7
為替換算調整勘定	△ 95	△ 107
新株予約権	—	8
純資産合計	6,324	5,932
負債及び純資産合計	12,924	10,203

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (自平成22年1月1日 至平成22年12月31日)	当連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)
売上高	10,821	10,163
売上原価	8,476	8,400
売上総利益	2,344	1,763
販売費及び一般管理費	1,977	1,767
営業利益又は 営業損失(△)	366	△ 4
営業外収益	32	24
営業外費用	44	47
経常利益又は 経常損失(△)	354	△ 27
特別利益	2	0
特別損失	233	12
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	123	△ 39
法人税、住民税及び事業税	19	16
法人税等調整額	△ 279	272
少数株主損益調整前当期純損失(△)	—	△ 328
当期純利益又は 当期純損失(△)	383	△ 328

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前事業年度末 (平成22年12月31日現在)	当事業年度末 (平成23年12月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,763	5,992
固定資産	3,734	3,716
資産合計	12,497	9,708
<b>負債の部</b>		
流動負債	5,091	2,967
固定負債	1,214	847
負債合計	6,305	3,814
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,193	5,892
資本金	1,395	1,395
資本剰余金	1,909	1,909
利益剰余金	2,889	2,588
自己株式	△ 0	△ 0
評価・換算差額等	△ 2	△ 7
その他有価証券評価差額金	△ 2	△ 7
新株予約権	—	8
純資産合計	6,191	5,893
負債及び純資産合計	12,497	9,708

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	10,410	9,735
売上原価	8,358	8,267
売上総利益	2,051	1,467
販売費及び一般管理費	1,730	1,458
営業利益	321	8
営業外収益	60	95
営業外費用	59	61
経常利益	322	42
特別利益	1	0
特別損失	345	11
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	△ 20	31
法人税、住民税及び事業税	8	3
法人税等調整額	△ 282	274
当期純利益又は 当期純損失(△)	253	△ 246

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 株式の状況 (2011年12月31日現在)

株式の総数

発行可能株式総数 13,600,000株

発行済株式の総数 3,400,000株

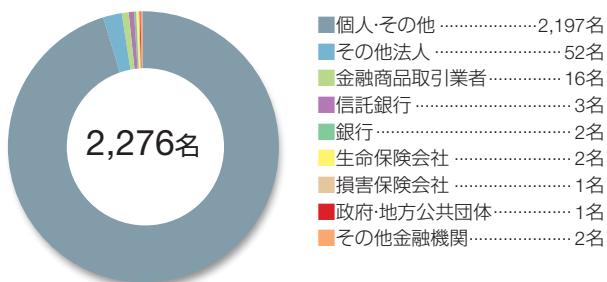
株主数 2,276名

大株主(上位12名)

株主名	持株数	持株比率
鳥越 俊男	745,000 株	21.91 %
東京応化工業株式会社	360,000	10.58
タツモ従業員持株会	207,300	6.09
中銀リース株式会社	101,500	2.98
鳥越 琢史	85,000	2.50
株式会社中国銀行	74,500	2.19
鳥越 紀男	70,000	2.05
株式会社石井表記	68,200	2.00
株式会社ニッコウトラベル	67,800	1.99
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	60,000	1.76
中銀カード株式会社	60,000	1.76
中銀保証株式会社	60,000	1.76

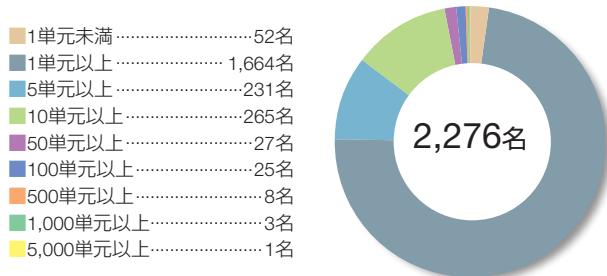
(注)持株比率は自己株式数(349株)を控除して算出しております。

所有者別株主分布



※自己株式は個人-その他に含めて記載しております。

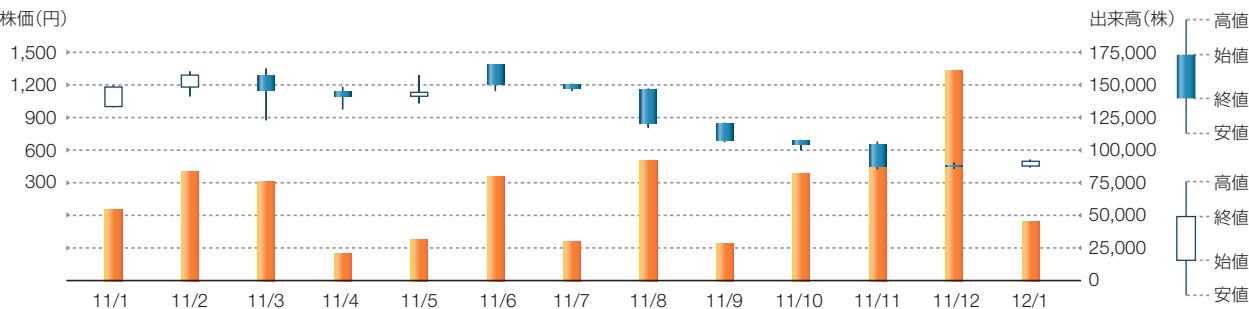
所有単元数別株主分布



※自己株式349株は1単元以上に含めて記載しております。

株価チャート

株価(円)



## ■ 会社概要 (2011年12月31日現在)

商 号	タツモ株式会社
本 社 所 在 地	〒715-8603 岡山県井原市木之子町6186番地
設 立	1972年2月
資 本 金	1,395,240千円
事 業 内 容	液晶製造装置、半導体製造装置、 搬送ロボット、精密金型及び樹脂成形品、 プリント基板検査装置などの開発・製造・販売
従 業 員 数	345名(連結 621名)
営業所・工場及び支店	第二工場・第三工場・第五工場 玉島工場・横浜営業所・台湾支店
子 会 社	プレテック株式会社 TAZMO INC.(米国) 上海龍雲精密機械有限公司(中国) 大連龍雲電子部件有限公司(中国) TAZMO VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム) TAZMO KOREA CO.,LTD.(韓国)

主 要 取 引 銀 行	株式会社中国銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行
取 締 役 及 び 監 査 役 (2012年3月27日現在)	代表取締役会長 鳥 越 俊 男 代表取締役社長 池 田 俊 夫 専 務 取 締 役 国 光 美 暢 常 務 取 締 役 福 井 啓 取 締 役 仕 田 原 仁 志 取 締 役 亀 山 重 夫 取 締 役 山 邊 浩 常 勤 監 査 役 山 本 正 治 監 査 役 瀧 本 博 監 査 役 佐 々 木 健 監 査 役 大 山 邦 雄

### ホームページのご案内

IR情報を当社のホームページに掲載いたしましたので、こちらからもご覧ください。



<http://www.tazmo.co.jp/>

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 (〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
	●お問い合わせ先 0120-094-777(フリーダイヤル)
	●各種お手続き用紙のご請求 0120-684-479(フリーダイヤル)
	株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のインターネットでも24時間承っております。 <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞

### 【手続き書類のご請求方法】

- |                   |   |
|-------------------|---|
| ○音声自動応答電話によるご請求   | 0120-684-479(フリーダイヤル)   |
| ○インターネットによるダウンロード | <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a> |

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6266

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

## タツモ株式会社

〒715-8603 岡山県原市木之子町6186番地